

学校だより（別号） 「平成30年度 全国学力・学習状況調査のお知らせ」

平成30年度全国学力・学習状況調査を4月17日（火）に3年生を対象として実施しました。結果や成果・課題等については下記のとおりですのでお知らせ致します。

1. 本年度の学力・学習状況調査の正答率の比較

こちらの表は、「平成30年度全国学力・学習状況調査」で実施された国語科A・Bおよび数学科A・B、理科、それぞれの平均正答率です。本校、全道、全国の平均値と、全道、全国それぞれの平均値と本校の平均値との比較も示しています。

		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
平成30年度	本校	84.0	61.0	71.0	52.0	74.0
	全道	77.0	61.0	65.0	46.0	67.0
	全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1
全道との比較		+7.0	±0.0	+6.0	+6.0	+7.0
全国との比較		+7.9	-0.2	+4.9	+5.1	+7.9

*全体的に全道・全国よりも高い状況となっています。

2. 結果の分析より

■ 国語A] (主として 知識)に関する問題) ・ 国語B] (主として 活用)に関する問題)について

《成 果》

○国語Aでは、すべての領域で、全国を上回っている。

○国語Bでは、「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国を上回っている。

《課 題》

▲国語Aでは「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと」の正答率が比較的低い。

▲国語Bでは「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと」の正答率が比較的低い。

■ 数学A] (主として 知識)に関する問題) ・ 数学B] (主として 活用)に関する問題)について

《成 果》

○数学Aでは、「図形」「関数」「資料と活用」で、全国を上回っている。

○数学Bでは、すべての領域で全国を上回っている。

《課 題》

▲数学Aでは「数量の大小関係を不等式に表すことができること」の正答率が全国を下回っている。

▲数学Bでは「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」の正答率が比較的低い。

■ 【理科】について

《成 果》

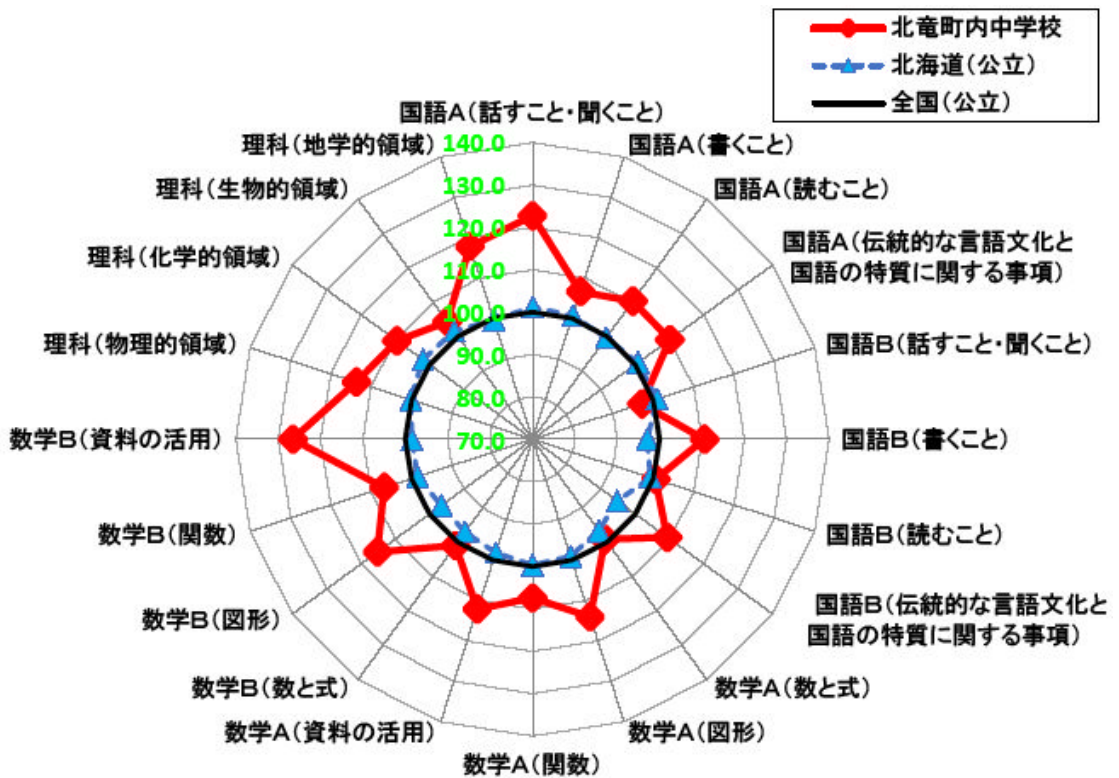
○理科では、すべての領域で全国を上回っている。

《課 題》

▲「生物学的領域」の正答率が比較的低い。

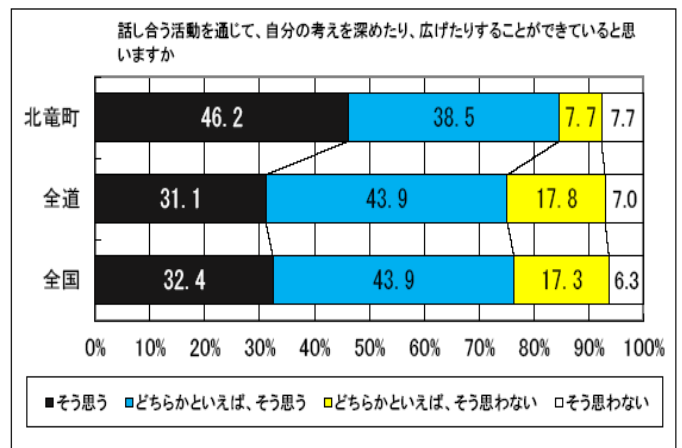
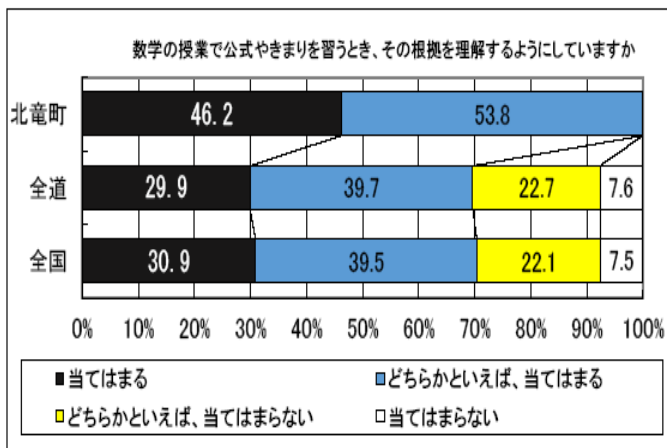
■全国と北竜中学校の平均正答率を比較した図

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものです。
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



■【学習状況調査】について

- 「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしている」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。
- 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。



3. 今後の取組について

子どもたちが変化の激しい社会を生き抜く実践的な力を身に付けるためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、それらを活用して、課題等を見つけ、解決していく力を育成・向上させていくことが重要です。そのため、全国学力・学習状況調査の結果を基に、学習指導の改善・充実や学習習慣の定着に取り組み、「学ぶ楽しさと、わかる喜び」を実感できる授業を推進します。

ご家庭におかれましても、規則正しい生活リズムの中から学習時間を確保していただき、お子さまにとって充実した学習環境の整備をお願い致します。